

2018年11月4日(日)朝10:10～

降誕前第8、教会堂バザー等

11月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：ノアの箱舟が問いかけること

(創世記9:1～3)

聖書：I ペテロ 3章20～22節

＜口語訳＞

新約聖書369～370頁

I ペトロ 3章20～22節

＜新共同訳＞

新約聖書432頁

I ペテロ 3章20～22節

＜新改訳第3版＞

新約聖書456頁

I ペテロ 3章20～22節＜塚本訳＞

新約聖書743～744頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ I ペテロ書は、迫害などが原因で散らされ、流浪の人々となったユダヤ人キリスト者への書簡と理解され、その離散生活を神の聖潔に与った者として、派遣された旅人として、神なき人々に神信仰の柔順を示すことを求めています。
- ◇ I ペテロ書1章1～2節は、神の選びと派遣、3～5節は、神讚美、6～12節は、究極の救いの喜び、13～17節は、キリスト者の聖さ、18～21節は、聖く生きるキリスト者の信仰、22～25節は、互いに愛せよ、2章1～8節は、霊の家となれ、9～10節は、神に生きる確信とあかし、11～12節は、立派な行動をせよ、13～17節は、人間の制度に服従せよ、18～25節は、しもべは主人に、3章1～6節は、妻は自分の夫に従えと、7節は、夫には妻を尊敬せよ、8～12節は、悪口を言う者を祝福せよと、13～17節は、神を畏れ、善を行なえと、ペテロは語っています。
- ◇ I ペテロ書3章18～22節は、キリストを模範として生きよと、ペテロは命じています。

本論；

◇本日、I ペテロ書3章20～22節から主の使信に思い・心vousをとめます。

◆ I ペテロ3章20～21節；ペテロは、キリスト・イエス様の神信仰を模範として生きよと語っています。

◇18～21節；塚本訳◆キリストの模範

「20 彼らはかつてノアの日、箱船が造られる間神が寛容をもって(悔い改めを)待ち給うた時不従順で、(ただ)少数の者、すなわち(ノアとその家族)八人(だけ)がこの箱船に入り 水を通して救われた。

21 今や この水の対型たる洗礼は、肉の穢れを除くことでなく、善い良心を神に祈願することであって、イエス・キリストの復活により君達をも救うのである。」と、ペテロは、語っています。

◇20～21節；「不従順で、(ただ)少数の者」、  
「この水の対型たる洗礼は、肉の穢れを除くことでなく、善い良心を神に祈願することであって、イエス・キリストの復活により君達をも救う」

⇒**陰府**における**霊なる**人々を**ノアの日**に**箱船**に入らなかった時の「**不従順**」ゆえに洪水の中に飲み込まれた人々として、**ペテロ**は解説しています。

⇔滅びの**ノアの洪水**は、**イエス・キリスト様**の働きの結果、「**神の救い**」のしるしの洗礼となったのです。

⇒加藤常昭師は、1976年に帰天された森有正師の最後の著書「**いかに生きるか**」で、「自分は死ぬために生きている」と、ある若者に語った森師のことばと「私にとって問題は朝です。非常に具合が悪い時には、朝起きた時が一番つらいのです。・・・しかし、キリストのおいて、赦されているのだと考えると、急に元気になります」のことばを引用し、**I ペテロ書3章20～22節**の最もふさわしいあかしだと語っておられます。

⇒**イエス・キリスト様**は、**陰府・神への不従順**に生きた人々に「**神の救いの福音**」を語って下さったとともに、**イエス・キリスト様の福音**を信じる者の罪を赦し、復活の希望を与えて下さったのです。

- ⇒**陰府**は、**神の不従順**だったすべての人々の行くところですが、**神に不従順な人々**は、この世にも、暗黒の地獄を築くのです。
- ⇒**神のみ**が、**天と陰府**を繋ぐ道であり、門です。
- ⇒**神のことば**である**神の御子イエス・キリスト様**は、「**ノアの洪水**」という出来事を通して、滅びに直面している私たちの罪の問題に向かわせて下さるといのが、使徒ペテロの使信です。
- ⇒「**ノアの洪水**」と「**洗礼**」は、時代を超えた出来事ですが、古いものを「**ノアの洪水**」は、水に葬り、家族8人だけが生き、「**洗礼**」は、**神の御子イエス様**を**罪からの救い主**と信じる者を罪から救い、信じない人々を滅びに定めることが、一つの「**比喩**」として取り上げる事が出来るというのです。
- ⇒「**ノア**」も、手をこまねいていたのではなく、馬鹿にされても、「**箱舟**」＝「**教会の比喩**」を作り続け、他の人々にも、それぞれ「**箱舟**」を作って「**洪水**」から逃れるように語ったのです。
- ⇒併し、**ノアの家族**以外は、**ノアの神のことば**を聞かなかったのです。

◆ I ペテロ3章22節 ; ペテロは、キリスト・イエス様の神信仰をもって生きよと語っています。

◇ 18～21節 ; 塚本訳 ◆ キリストの模範

「22 彼は天に行き 神の右に居給うて、使い、権威、権力(等の天使達)がこれに服従している」と、ペテロは、語っています。

◇ 22節 ; 「彼は天に行き 神の右に居給うて」、「使い、権威、権力(等の天使達)」が、イエス・キリスト様に服従している。

⇒ I ペテロ書2章13節から学んできた「服従」が主題で、3章18～22節が結論です。

⇒ 神のしもべであるキリスト者は、神の救いの福音に生きるため苦難を背負い、悪口をいう者さえも祝福せよと命じられ、これに従って来た者です。

⇒ 神の祝福は、罪に敗北する者を責めず、告白するすべての罪を受け入れ、罪を赦すと宣言して下さるものなのです。

⇒ 森有正師は、ご自分の死を直前に見つつ、朝起きるのも苦痛な体調の中で、自分の神不信を告白し、神の赦しを確信、元気を得ました。

## 結論；

- ◇ **神**は、昔も今も、変わらず愛の神、思いやりの神です。
- ◇ **I ペテロ書1章1～2節**は、**神の選びと派遣**、**3～5節**は、**神讚美**、**6～12節**は、**究極の救いの喜び**、**13～17節**は、**キリスト者の聖さ**、**18～21節**は、**聖く生きるキリスト者の信仰**、**22～25節**は、**互いに愛せよ**、**2章1～8節**は、**霊の家となれ**、**9～10節**は、**神に生きる確信とあかし**、**11～12節**は、**立派な行動をせよ**、**13～17節**は、**人間の制度に服従せよ**、**18～25節**は、**しもべは主人に**、**3章1～6節**は、**妻は自分の夫に従え**と、**7節**は、**夫には妻を尊敬せよ**、**8～12節**は、**悪口を言う者を祝福せよ**と、**13～17節**は、**神を畏れ、善を行なえ**と、**ペテロ**は語っています。
- ◇ **I ペテロ書3章20～22節**は、**キリストを模範として生きよ**と、**ペテロ**は命じています。  
⇒ **キリスト者の「服従」の基盤**は、**神無視の罪人**のために、**身代わりの十字架の死**を**神背負って下さったキリスト・イエス様の愛の服従**で、**祝福を受けた者が命令を実行**できます。

⇒ **I ペテロ書3章20～22節**は、「**ノアの洪水**」と「**洗礼**」という出来事を比喩という方法で、**神のことばの真理**を近づけて、理解させるのです。

⇒「**洗礼**」は、牧師が授けますが、マタイ28:19～20のみことばに基づいて、施行するのです。**神のことばである神の御子**を信じる共通の**神信仰**を欠くと、お笑いとなります。併し、「**ノアの洪水**」に対し、家族の救いのために「**箱舟**」を作った**ノア**を馬鹿にした人々は、「**洗礼**」を馬鹿にする人々に通じているのです。

⇒「**神のことば**」の真実を受け止め合う教会の礼拝を大事にしたいと願います。